

問題【英語】

“英語と日本語の動詞の種類の違い”

問：以下の英文を日本語に直しましょう。

- (1) He broke this window.
(2) This window broke when the wind was strong.

豆知識 雑学コラム

根本的な違いを知る

(1)は「窓を壊した」、(2)は「窓が壊れた」ですが、ちょっと不思議だと思いませんか？ 日本語は「壊した」「壊れた」と違う形を使うのに、英語では同じbreakの過去形のbrokeです。(1)のように“…を”になる名詞をとる動詞を他動詞、“…を”になる名詞をとらない動詞を自動詞と言います。ほとんどの英語の動詞は、他動詞でも自動詞でも同じ形です(例えば、increaseは「～を増やす」「～が増える」、またfloatは「～を浮かべる」「～が浮かぶ」など)。一方で、多くの日本語の動詞は、他動詞と自動詞は違う形(「が壊れる」「を壊す」「が沸く」「を沸かす」など)です。大切なことは、①英語では、一つの動詞が他動詞としても自動詞としても使うことができる点、②他動詞の使用法が中心であることです。(1)では、He (彼は) broke (壊した) this window (この窓を) のように、考えてみましょう。英語では、～は(主語)、する(述語)、～を(目的語)の語順の文が中心になります。

英語的な側面から見てみましょう。他動詞は、英語ではtransitiveで、自動詞はintransitiveです。英語の中のtransという部分は「移る」を意味します。実は、英語の他動詞transitiveは、“受け身文に変わることができる動詞”という意味です。自動詞は、in (否定) がついていますので、“受け身文にはできない動詞”という意味です。

(1) He broke this window. → (受け身) This window was broken by him. (この窓は彼に壊された)。

(2) 英語の受け身は不可です。日本語では、“風が強いとき、この窓は壊された”と受け身にできます。

もう一度、ここでおさらいを。

1・英語は多くの動詞の他動詞、自動詞の形が同じ。一方、日本語は形が違う。

2・英語は「～は」「～を」に当たる部分を語順が決める。一方、日本語は、助詞が決める。

3・英語では、他動詞のみ受け身にできる。一方、日本語は、他動詞でも自動詞でも受け身にできる。

最後に一言。言葉と言うのは、数学や理科と違って、物事が一定の条件下では同じ結果がでる“科学”ではありません。例外・規則外が多くあります。また、規則を無視することで力強く伝えることができます。Becomeは典型的な自動詞で、規則上は受け身にはできないはずですが、原爆の発明者のオープンハイマーは、原爆実験を成功させた後、becomeを受身形で使用して、こう言っています。

Now, I am become death, the destroyer of worlds. (今、私は死、世界の破壊者にさせられている)

【解答】 (1) 彼は窓を壊した。(2) 風が強いとき、この窓が壊れた。